

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテや臨床検体を利用することをご了解いただけない方は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究名】乳房造影超音波検査を用いた乳癌術前化学療法の治療効果予測の検討

【研究機関】愛媛大学医学部附属病院 乳腺センター

【研究責任者】亀井 義明(乳腺センター センター長)

【目的・意義】

超音波診断用造影剤「ソナゾイド(R)注射用」を用いた乳房造影超音波検査(以下、CEUS)は、通常のカラードップラ一法と比較して、病変のより詳細な血流評価が可能であり、乳腺腫瘍の良悪の鑑別などに有用であるとの報告がされています。また、この造影剤は、造影 CT や造影 MRI とは異なり、造影剤が呼気より排泄される薬剤であり、腎機能障害や喘息の既往等に関わらず安全に投与できる薬剤です。乳癌の術前化学療法は、局所進行症例や腋窩リンパ節転移に施行され、腫瘍の薬剤感受性を知ることができ、また局所進行乳癌では手術可能となるなどのメリットがある一方で、ごく一部の症例では薬剤抵抗により腫瘍が増大し、局所治療が遅れる可能性があります。しかし、治療効果を事前に予測するためのバイオマーカー検索が行われているものの、未だ確立した因子はまだないのが現状です。そこで術前化学療法の治療効果予測に CEUS が有用であるかどうかを当科の症例を用いて後ろ向きに検討することにしました。

【研究方法】

対象患者:愛媛大学医学部附属病院にて 2017-2021 年 3 月当科で術前化学療法施行(NAC)し、NAC 前後でのソナゾイドによる造影超音波を施行されている患者さん。

方法:CEUS の Time-intensity curve から得られる各血流パラメーター[Peak intensity (PI), Time to peak (TTP), Mean transit time, Slope, Area]の術前化学療法施行前と後での変化や術前化学療法の病理学的治療効果と関連性について検討。またその他の画像検査(造影 CT や造影 MRI)の造影パターンと比較することを予定しています。

【研究期間】

愛媛大学医学部附属病院長許可日～2025 年 3 月 31 日

【個人情報の取り扱い】

収集した情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる情報を除いて匿名化いたします。個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

【情報管理責任者】 乳腺センター医員 田口加奈

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、【お問い合わせ先】までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

【お問い合わせ先】

愛媛大学医学部附属病院乳腺センター センター長 亀井 義明

〒791-0295 愛媛県東温市志津川

電話番号:089-960-5327